





旧洞爺村



仲洞爺



社警町東湖畔

見る場所によって  
さまざまに変わる、  
中島のカタチ



洞爺湖温泉街



月浦

大島、観音島、弁天島、饅頭島の4つからなる中島。  
それぞれの島の位置関係により、  
見る場所によって洞爺湖の景色も大きく変わります。  
湖畔沿いをぐるりと一周できるのは、  
洞爺湖のほかは琵琶湖だけとか。  
この景色のあわいにある無限のレイクビューを楽しみながら、  
一番しっくりくる場所を探してみて。

### Question

## どこから見た洞爺湖が 好きですか？

一番多かった回答は、もちろん「自分の家！」。  
洞爺湖周辺の家は、それがお墓だろうと、  
「南向き」などの条件は度外視で、  
どれも湖を向いていることが多いです。  
今回はみなさんも訪ねられる場所で、  
個人的な思い出がある回答を紹介します。

1



上野美津江さん

わかさいもの工場がある坂道の前から湖を見ると、羊蹄山が正面に見えるのが好きなの。幼い頃からこの景色を見てきて、やっぱり忘れられなくて40年ぶりにリターンしちゃったんだよね！

3



石塚誠さん

230号線の坂道を下って、湖が見える場所。札幌で週末働いて、伊達に暮らす親の介護をするため週末のたびに湖畔の道を通った。ほんとになんか、向こうに湖が見えた瞬間、都会で働くストレスとか、嫌なことふわって忘れられるんだよね。暮らすようになった今でも大好き。

3



田所啓太さん

230号線を山から降りてきて、一番最初に目に飛び込んでくる湖。なんか今でもワクワクして、物語が始まるような気持ちになるんだよね。あれ、なんだろうね。

6



五十嵐綾さん

やっぱり、うちの洞爺寺から見える洞爺湖が好きかな。中島も左右対称できれいでしょ。寺の上のほうに上ると、もっときれいに見えるんです。誰でも入っていいので、ぜひ見に来てください。

10

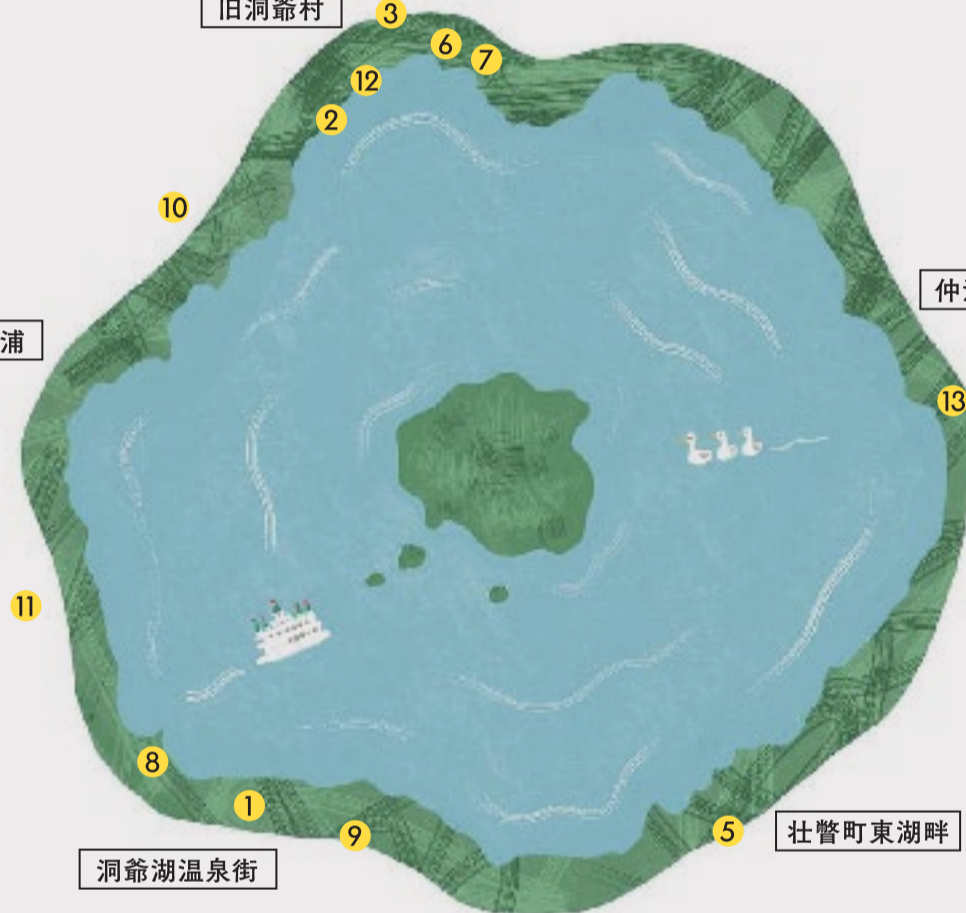


島山三男さん

やっぱりなんと言っても、サイロ展望台。本音をいえば、隣にある介護施設のあたりから見るのが一番だね。温泉街から見たら、中島って一つの大きな島に見えるんだけど、上から見たら湖の真ん中に中島があること、中島が4つの島からできてるってことがわかる。バス運転手として60年、たくさんのお客様を運んだよ。懐かしいな。

4

旧洞爺村



月浦

洞爺湖温泉街

社警町東湖畔

仲洞爺

7



宮内八千代さん

宮内農園の丘の上の畑から見る洞爺湖の景色が一番、ホッとするんだよね。もう60年も見てますからね。今年から丘にアジサイを植えてみたの。いつでも誰でも、訪ねてくださいね。

11



藤兼久雄さん

月浦の展望台です。お客さんが来たら必ず連れて行くんだけど、絶対喜ばれるね。穴場だから車もゆっくり停められるし、洞爺湖を上から一望できる。

8



中城徹さん

西山火口の展望台。昔タクシー運転手をしてたんだ。「どこかおすすめの景色ある？」ってお客さんに聞かれたら、まずここに連れて行ってたね。お金はかかるんだけど湖の9割が見えるんで、みんな満足してましたよ。

12



宮本好さん

とうや水の駅裏の湖畔にある、土管の上から見る洞爺湖かな。生まれた時からずっと見てきた景色。なんとなく、死んだらあの湖に還るだろうなと思ってるんです。そう思うと、ホッとします。

2



佐藤悟さん

ぐるっと彫刻公園の「風待ち」ごしに見える洞爺湖が好き。その景色からシンパシーを感じて、休日のたびに4-5年通って、気づいたら住んじゃった！

4



秋元哲也さん

大原から富丘に向かう途中の林道から見る洞爺湖。こんな遠くからも湖って見えるんだよね。夕方、うっそうとした森の向こうにピンクのグラデーションに染まった洞爺湖が見えて、それはもう美しかった。

5



加藤さん

壮警公園の梅林だね。4月くらいかな。梅も桜も一緒に咲き乱れる、天国みたいな場所だね。もうあそこに行ったら、帰らなくなるんだよ。

9



酒井嘉子さん

東日本大震災をきっかけに、洞爺湖で「いのちの森づくり」の活動を始めたんだよね。古くなったカラマツを伐ると、そこから洞爺湖のすべてが一望できるようになってびっくり。そこには新たに植樹したので、いつか一望できなくなるかもしれないけど...今だけの絶景です。植樹のイベントもやってるので、ぜひ参加してくださいね。

13



今井亮輔さん

仲洞爺キャンプ場付近から見る湖畔の景色。夕日がきれいな場所で、冬は倒木に飛沫水が付いて幻想的な光景が見られます。どんな悩みも、この雄大な自然に比べるとちっぽけで。乗り越えられるな、と何度も前向きな気持ちにさせられました。



第一夜

暮らしているとあまり意識しないけれど、私たちが暮らす洞爺湖って実は、海外や道内の国立公園を見て思うところがあるというZERODAYの二人が、「いきものいんく」代表の加藤さんと熱い話を交わしました。焚き火を囲めばきっと、難しい話だって溶けて混ざって、笑顔にかわる。

これからの、支笏洞爺国立公園

ZERODAY 大須賀太郎さん・桃さん

洞爺湖温泉街在住。アウトドアショップ「ZERODAY」を営む夫婦。世界一周や海外ハイキングなど、旅行経験豊富。加藤さんとは15年以上の仲。



NPO 法人 いきものいんく 代表 加藤康大さん

伊達市在住。元環境省職員。現在は胆振管内の子どもたちに野生生物の視点から環境教育を行っている。夢は教え子が環境教育の場で働いてくれるようになること。

盾からスタートしてるんです。海外の国立公園ももちろん人に来てほしいんだけど、保全と教育が一番の目的なので、やっぱり日本とは違いますよね。海外の国立公園は、入ること自体にお金がかかることもある。

桃さん：なるほど。加藤さん：海外の国立公園の中にも観光地ってあるんだけど、利用や規制の仕方が全然違う。一箇所に観光客を集めてるよね。奥に入るには許可証が必要だったり、1日何人まで、っていうのが決められてたり。

桃さん：へえ〜。加藤さん：海外の国立公園がしっかり守られてるのは、ほとんどが国有地だからっていうのもあるよね。たとえばアメリカは国立公園のほとんどが国有地なんです。だから国が力を持っているけど、日本の国立公園

で言ったら、国有地って60%くらいしかない、みたいなことになって。あとの40%は、私有地や道府県、市町村の土地。そうすると国も、強く言えないっていう。

桃さん：所有者に対してお願いベースになっちゃうんだね。洞爺湖は日本の国立公園のなかで、どんな特徴があるの？

加藤さん：めちゃくちゃ特殊なんだよね。支笏洞爺国立公園は、一つの国立公園の中に洞爺湖温泉、登別温泉、

あと定山溪温泉というでかい温泉地を三つも持っているのが何よりの特徴。札幌からも近くてアクセスが良く、どこよりも観光色の強い国立公園なんですよ。だからどうしても保全とかより、利用寄りになっちゃう。

太郎さん：へえー、なるほど。加藤さん：国立公園にはいろんなルールがあるんだけど、温泉街に関して言うと、特認区域ってあって、いろんなことが認められて。

太郎さん：特認区域。加藤さん：そう。建物に係る規制がゆるいみたい。洞爺湖温泉街は、国立公園に指定される前から温泉街が出来上がって、生まれた時から親が商売してた人が多いんだよね。だから後からできた国立公園のルールでいろいろ言われても…

太郎さん：めんどくさいな、うるさいなってなりますよね。加藤さん：そうそう。

桃さん：そうだよな、意識してないからっていうのもあるよね。もっと何か、国立公園で仕事ができる喜びみたいなものがあれば、いいんだろうけど。

太郎さん：基本的な意識は、国立公園であろうとなかろうと変わらないって思ってる。どこの里山だろうが、

どこの国のどこの国立公園だろうが、自然を大切に守りつつ遊ぶっていう感覚がみんなに備わってれば、どこでも大事にできるし楽しめるっていうのは思ってる。国立公園だからこうじゃなきゃみたいなのは…。

加藤さん：そうだよな。

太郎さん：伊達の自然でも、遊んで十分楽しいと思えますよね。

加藤さん：だけどやっぱり洞爺が国立公園になったってことは、守るべき自然があるっていうふうに言われてるってこと。

桃さん：守るべき自然って、たとえばどういうところ？

加藤さん：とても珍しい固有種がいますとか、そういうのはない。何もないけど、やっぱりあんなまん丸の湖の、真ん中に島があって、その後ろに、世界でも有名な活火山があって噴煙が上がって、湖の向こうには富士山みたいな山があって、もうこの景色はそりゃ国立公園になるよねっていう。ほんとに、景勝地としてこんなきれいな景色ないでしょって！



桃さん：うーん、そうだよな。

加藤さん：自然度の高さや生物の多様性でいったら、これから国立公園になることが予定されている日高山脈襟裳国定公園とかのほうが、道内でもトップクラスかなって思う。

桃さん：そういうところは、ゴリゴリに守られてほしいよね。

太郎さん：最近、逆に国立公園じゃないところのほうが、本当に手付かずの自然環境があるんじゃないかって興

味があるんですよね。みんな：わかる。加藤さん：洞爺湖に関して言うと、国立公園「なのに」みたいなことが多すぎてさ。たとえば、国立公園の中でも、重要度のランクがあるんです。特別保護地区の昭和新山、羊蹄山の山頂部分とか。本当に何もしちゃいけないよっていう。

桃さん：一番トップレベルに保全されてる。

加藤さん：うん。その次が第一種特別地域。通称「一特」ってところで、洞爺湖の水面と水と中島って一特なんです。なのに、花火ゴミの問題があるよね。

桃さん：花火ゴミ、拾ってるっていうけど実際に旧洞爺村の対岸に流れついているものもありますもんね。花火自体が悪ではないし、それを楽しみに来てるお客さんも多いし、住んでる人も誇りに思ってる人は多いなって思うから、難しいよね。

太郎さん：保護と利用っていうバランスの取り方が、難しいよね。それによって感じる楽しみ自体は悪ではない。立場とかによって変わってくるのかなって。

加藤さん：あとは、野生動物への餌やりもね。国立公園としてそれはどうなんだろうって。

桃さん：あ〜。そういえばそうだね。

加藤さん：前職で海外のレンジャーを案内することがあったんだけど、彼らに胸を張れるような国立公園になってほしいなって本当に思ってる。

桃さん：そのためにはどうなっていったらいいんですかね。

加藤さん：たとえば野生動物に対して、人間が何かを与えるとか、触れるっていう行為が良くないっていうことが染み込んでない、知らないんだと思うんですね。だから、それは教育のやるべきことかなって。

桃さん：やっぱり教育って大事ですね。

加藤さん：大事ですね!! カナダでそれやったら、法律違反ですからね。今の状況を反面教師にしながら、子どもたちには相当リアルに教えていますよ。

太郎さん：あとは、お店でお客さんから聞かれることが多いんだよね。洞爺湖の利用ルールとか、カヌーは

どこから乗ったらいいですかとか。「これを見てください」ってピンッと見えるものがあるといいよね。

桃さん：これから洞爺湖はどうなったらいいかっていうのはありますか？

加藤さん：たぶん、これからもっと自然保護に力を入れていこうってことにはならないと思うんだよね、正直。だからできれば利用の範囲を定めて、温泉街以外の場所は保全に努められたらいいよね。

太郎さん：僕らも海外でいろんな国立公園を見て、自然保護の面では海外のようになったらいいなって思うんです。でもそれって、国の力がすごく強いっていうことでもあるなって。きつと組織的な部分もかなり出来上がってるんだらうなって。

加藤さん：そうだね。

太郎さん：そう考えると、私有地の多い日本の国立公園では難しいでしょ。結局、今はローカルの人たちとうまく繋がってやっていくことかなって。それもあって、「洞爺ミーティング」を始めたんだよね。洞爺湖の美しい自然に一番恩恵を受けているのは、住んでいる僕たちローカルだから。お金に代えられないこの財産を、住んでる自分たちで守っていかれたら思ってる。

加藤さん：自分は教育の場面から、できることをやっとうこうと思ってる。いつか子どもたちが成長して大人になって、良い方に変わるかもしれないしね。



加藤さんが講師となって行われた、ZERODAY主催の洞爺ミーティング。国立公園などをテーマに、大人を対象に全5回にわたって行われた。

ZERODAY コラム 自然にやさしい野外活動講座. 1 時間目. Leave No Trace ってなんだろう? 原則その1 事前の計画と準備. 1. 事前の計画と準備 (Plan ahead and prepare) 2. 影響の少ない場所での活動 (Travel and camp on durable surfaces) 3. ゴミの適切な処理 (Dispose of waste properly) 4. 見たものはそのままに (Leave what you find) 5. 最小限の焚き火の影響 (Minimize campfire impacts) 6. 野生動物の尊重 (Respect wildlife) 7. 他のビジターへの配慮 (Be considerate of other visitors). TRY 「持ち込むゴミを最小限に」 2泊3日の山行に持っていく食料のゴミを事前小分けする. パッケージの封や、パッケージそのものは... あらかじめパッケージから出して、ジップロックなどにまとめる. 空になったジップロックはゴミ袋として使え、個包装の重さも軽減できますよ!

あの味と、あの人に会いに。

仲洞爺キャンプ場の「来夢人の家」にあるうどん屋、金沢屋から衝撃のニュースが飛び込んできた。「2024年の春をもって、現在の場所での営業を終了します!」。変わらないものなんてないはずなのに、それでもなぜかこの場所に金沢屋があり続けると思っていた。それは店主の廣島夕美子さんも同じだった。「契約更新できないことになって営業終了が決まってから、店から見える夕日の美しさとか、季節のうつろいを見てハッとするの。来年はもう見れないんだなって。ほんととはいつだって同じ日はないのにね…」。

2016年の5月、石川県から連れてきた母と弟とともに開店した金沢屋。実家で営んでいた店の味を受け継いだうどんは、遠く離れたこの場所でも人気を得た。夕美子さんとスタッフ5名で営む今は、リピーターのお客さんがほとんど。ホッとするうどんの味はさるこ

とながら、夕美子さんの人柄にもファンがたくさんついている。気さくな笑顔と飾らない会話を求めて、伊達や室蘭から訪れるお客さんもいるという。「利益より、お客様第一」。商売人の母から受け継いだ言葉が、金沢屋を成長させてきた。

閉店後のことは決まっていない。どこか良い場所があれば、また再オープンしたいという。おいしいうどんを食べて笑顔になるお客さんを見るのも、一緒に働くスタッフと笑い合うのも、かけがえのない時間。気づいたら、金沢屋をとりまくすべてが大好きになっていた。

「ああ、話したら寂しくなっちゃった!」。まるで明日閉店するかのごとく、目を潤ませながら笑う夕美子さん。幸い、閉店までまだ時間がある。湖畔沿いの木々のトンネルを抜けて、おいしいうどんと夕美子さんに会いに、季節ごとに訪れたい。



仲洞爺

金沢屋

☎ 金・土・日曜
🕒 11:00~15:00 (L.O.14:30)
📍 社警町仲洞爺30-11
(日帰り温泉 来夢人の家内)
🌐 kanazawa\_ya

来年の春までに、何度でも味わいたい



夏野菜スペシャル 950円

うるめいわし、サバ、かつおなどの混合だしと平打ち麺の組み合わせは、コク深いのにツルツルとのごしごとく夏にぴったり。近郊でとれた色鮮やかな野菜は、見ても食べても元気をくれる。

洞爺湖メイドのつくり手探訪

洞爺

漫画家 青島とうや



小学6年生の青山風穂さんと島スミレさんが2020年に結成した漫画家ユニット。風穂さんが作画、スミレさんが脚本を担当している。短い制作期間でキュートな漫画を作っているため、お互いの創作意欲が募って「ノッている」瞬間が一番楽しいという。ものをつくることへの純粋な楽しみに満ちた漫画は、面白さ以上の感動を与えてくれる。

@ aoshima\_toya



新作の表紙をチラ見せ

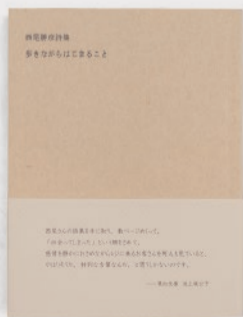
Q. 「洞爺湖でつくること」は、創作にどのような影響を与えていますか?

A. 私たちは自分たちのレーベルを「とうやコミックス」と名付けました。それは、漫画の舞台になるのは、都会より田舎であることが多いから。私たちにとって、田舎=洞爺。次の新作の舞台も実は洞爺湖。白鳥が歩いていたりとか…。住んでる人は気づいて楽しんでくれるかなって。たまに札幌に行くこともあるけど、やっぱり洞爺は落ち着くし、好きです。すごい大人がいっぱいいるところも大好きです。

洞爺湖畔の本屋さん たまたま書店の 湖畔で読みたい本

『歩きながらはじまること』

著・西尾勝彦 (七月堂)



奈良県在住の詩人、西尾勝彦さんの詩集。ぼつぼつ呟くひとり言のような、背伸びしない言葉が並ぶ。湖のそばの木陰で、小さく声に出して読みたい。

洞爺 たまたま書店 @\_tamamasha

LAKE TIMES は洞爺湖町の制作ユニット「とうや子プレス」がつくるフリーペーパーです。自費出版、パンフレット制作などお尋ねください。

とうや子プレス ✉ toyakopress@gmail.com

だから私は洞爺湖に来た

洞爺湖は、よい山・川・里が揃っている場所。



岩屋

秋元哲也さん

あおまめ 蒼麻芽農園

📍 洞爺湖町岩屋18番地22
🌐 nisekooaomamenouen



取材後、とれたてのズッキーニでお昼ごはんをこちそうになった。あまりの瑞々しさに、みるみる元気が出てきた。



柔らかな風が吹く静かな湖畔に住まいを移した。

ここでの野菜づくりは、「ゆるまされる」感覚があるという。ニセコに比べれば寒暖差は緩やかで、冬の積雪量も少ない。晴れの日が多く、野菜の出来もよい。無理せず、湖がたゆたうように自然に寄り添っていけばいい。キラキラ輝く秋元さんの野菜は、そんなことを教えてくれた。

現在は畑のほか民泊を運営し、湖での漁業と狩猟を組み合わせながら生活している。洞爺湖の自然に生かされ、生きている今。「だからこそ、なるべく環境を良くして次の世代に手渡していきたい」と語る。

自治会長や漁業組合など、すでに地域の役目を担う秋元さん。これからのテーマは、土地に根を張った暮らしを通じて、本質的な生き方を伝えること。その場として、「家庭菜園推進プロジェクト」という講座や「種の交換会」を行っている。畑の規模は10分の1になったけれど、秋元さんの地に足ついた暮らしから伝わるメッセージは、これからもっとたくさんの人に届いていこう。

財田

居住歴87年

宮内順一さん

(87才)

洞爺湖町の特産品、財田米を一番最初に作った宮内農園の4代目。開拓時の木材で建てたという、築100年を超える立派な日本家屋と日本庭園が自慢。趣味は登山と旅行とカラオケ。



この町をつくった人と写真

「おそらく昭和28年の秋の写真だな。昔、食糧難で米が貴重だった時代は、今のようには味を品評するのではなく、どれだけたくさん収穫できたかを競ってたんだ。この写真は、『米作日本一表彰全国競作大会』の北海道で一番になったときの写真だ。ふつう、十俵で手一杯のところを、十二俵もとれたっていうんだ。ほんとにね、すごいことだなと思うよ。とにかく、開拓の人が良い場所に入ってくれたなって…初代の宮内雄雄さんに感謝だね。

の収量はどのくらいになるかってわかるしょ。それを楽しみに計算してたんだから。そういう人だから、一番喜んでたのは常一さんでなかったかな。自分(写真右から3番目)は、17才の頃だな。洞爺高校の一期生だったんだけど、夜間学校でな。朝から夕方まで畑で働いて、夜から学校だから、とにかく眠くて眠くて…そうやってやってきた。

自分が4代目になってからは、農家をしながら、教育委員会に自治会長、農協の役員に…地域でいる一んな役目をやってきた。時には嫌われ役をやらねばならないこともあった。みんな、嫌われないから、言いたいこと言わないでしょ。だけど、自分は嘘をつきたくないから、ずっと正直にやってきたんだ。それでよかったと、今は思ってる。」



社警

農園キッチン物語

文: ヨツカド商店

@ yotsukadoshouten

農園キッチン…

生産者から消費者まで。農作物を生む人、加工する人、口にする人。それぞれの立場で食を囲み、「食の巡り」を共有し知ること。一人一人が“生かされている”こと、“循環の中にいる”ことを肌で感じられる場。それはきっとこの先、小さな町が手と手を合せて持続していくことのきっかけになるだろう。

タカシナ観光果樹園 さくらんぼ畑

第0回 | 2023年5月14日 | 晴れ

ヨツカド商店は大人4人、子ども2人、猫1匹。約2年前、住みよき暮らしを求め、みんなで社警町へやってきた。2022年には、社警町の道の駅前に売店舗をオープン。怒涛の如く、そして今ここに。変わりゆくものと、変わらないものを心に浮かべた時、ああ変わらないものの方が大半だなあと気付く。農園キッチンもそのひとつ。農園キッチンは、移住前の2015年に地元、青森県のりんご畑でスタートした。東京から社警町への移住と、集う事が困難になった歳月を経て、久しぶりの開催が叶う。さらに、私たちが、暮らしの拠点も、生き方さえもガラッと変化したこの数年。これまでの農園キッチンの在り方を一度リセットし、住まう場所のできる農園キッチンの在り方を探りたかった。それが今回のそうべつ農園キッチン第0回。社警ではどんな農園キッチンができるのか? そのヒントがほしくて、そうべつ農園キッチン第0回を開催。一人一人が参加

者同士の視界の中に居てもいいから、参加人数はあえて20人に。あなたが居て、わたしが居る。会話のキャッチボールに重きを置き、全員の自己紹介の時間も取った。会場園主の高階さんの農家としての話や、地物をを使った軽食をつまみながらの回らん。そして、皆のそうべつ農園キッチンへ込める希望を文字におこしてもらい、ひとつひとつ眺める。この第0回をヒントに来年2024年、第1回目を迎える予定(正式には、2023年7月の第1回目は残念ながら雨天中止になったため、来年にお預けとなった)。社警町らしくりんごの花咲く頃か、それとも赤い実のなる頃か…。農園キッチンはひとつの表現の場。誰でも自由にこの場を利用して、「食の巡り」を表現してほしい。生きていく以上、食の循環に関わらない人なんていないのだから。当の私たちがこそ表現の模範は続いている。きっとそれは生き方の模範であって、実は種々シンプルなものなのだろう。この夏、社警町に商店をオープンして間もなく1年を迎える。(今井真希)